

宇電懇 ニュース

宇宙電波懇談会事務局発行
(名古屋大学空電研究所)

目次

- | |
|------------------------|
| I. 宇電懇運営委員会委員選挙 |
| II. 宇電懇総会 |
| III. 第8回宇電懇運営委員会報告 |
| IV. 宇電懇・光天連運営委員懇談会報告 |
| V. 第9回宇電懇運営委員会報告 |
| VI. 第16回電波天文研究施設WG報告 |
| VII. 第17回電波天文研究施設WG報告 |
| VIII. 第18回電波天文研究施設WG報告 |
| IX. 事務局からのお知らせとお願い |

I. 宇電懇運営委員会委員選挙

次期(第10期)宇電懇運営委員及び委員長の選挙を行います。公示及び投票用紙は別途送付いたします。締切日厳守で返送下さい。選挙にあたって、委員が少数の研究機関に偏ったり、固定化したりしないよう配慮をお願い致します。以下参考のために、第7回運営委員会の議事録抜粋を掲載致します。

「次期運営委員の選挙(来年4月頃)について」(第7回運営委員会議題2.)

現在の運営委員は少数の研究機関に偏り過ぎている。さらに委員が固定化して、10年以上の委員も多い。宇電懇の発展のためには新しい人が運営委員に選ばれるようにする必要がある。10年以上の運営委員経験者は、

赤羽、森本、田中、田原、鰐目、海部、小川、石黒、川尻。

現在の運営委員の所属研究機関分布は、

NRO: 3名、名大理: 3名

野辺山太陽電波: 1名、空電研: 1名、宇都宮: 1名、富山大: 1名。

なお来年度より、NRO、野辺山太陽電波、空電研太陽電波は合併して野辺山電波天文台となるので計5名となる。

次期運営委員の選挙の際には、なるべく新しい委員が、全国各地から選ばれるように宇電懇会員に訴える必要がある。

II. 宇電懇総会

宇電懇総会を天文学会春季年会の期間中に開催致します。今回は第9期と第10期の区切りでもあり、また国立天文台発足に伴い議論すべきこともたくさんありますので、多くの会員の出席をお願い致します。

日時：昭和63年5月19日（木）12時～13時

場所：できればA会場（後日連絡）

主な議題：第9期活動報告、会計報告

第10期運営委員、委員長、事務局、事務局長

昭和63年度宇電懇シンポジウムのテーマ

電波天文専門委員の選出方法

その他

これに先立ち、運営委員会を開催致します。

日時：昭和63年5月17日（火）17時30分～19時

場所：会議室（後日連絡）

主な議題：総会提案議題、その他。

III. 第8回宇電懇運営委員会報告

日時：1988年2月26日11時5分～12時20分

場所：東京天文台三鷹宇宙電波研究室

出席者：田原博人、海部宜男、石黒正人、小川英夫、鰐目信三

（事務局：柴崎清登）

事務局報告：

1. 宇電懇ニュース第77号発行 1月27日（発送2月5日）

会費納入依頼（15名）。

長期滞納者（5年以上）督促状（5名）。（3月末にて退会とみなす）

2. 宇電懇シンポジウム関係

現在収録編集中（担当：小川）

3. 野辺山宇宙電波観測所共同利用委員推薦について

2年に1度野辺山宇宙電波観測所の共同利用委員が改選され、外部委員については宇電懇から推薦を行ってきました。しかし今回は、東京天文台が今年7月1日に改組されることになり3カ月任期が延長されたため、宇電懇からの推薦は必要なくなった旨観測所長より連絡がありました。また7月からの国立天文台においては、組織が変わり選考方法も変わります。いままで行ってきた宇電懇からの共同利用委員会の外部委員の推薦に対して観測所長からお礼が述べられました。

4. 会員数及び会費納入状況等

現在の会員数は264名。内、海外在住は5名。

今年度末にて退会希望者6名。

会費未納者は15名(除海外在住)。内、5年以上の長期滞納者は5名。
未納金の合計は55,000円。内、長期滞納者分は28,000円
前納者数7名。前納金合計17,000円。

5. 会計状況

残高: 336,089円

今後の主な支出予定: 宇電懇シンポジウム収録印刷費及び郵送費

6. 会員の移動等

新入: 村田泰宏 東大理天文M2(NRO)

移動: 前原英夫 東京天文台木曾観測所 → 岡山観測所

退会: 鈴木博子

7. 次期事務局について

東大理(祖父江、林)より次期事務局承諾の連絡あり。

「光天連体制WGからの報告」(田原紹介):

光天連体制WGではi)全国の関連研究者が共同・協力して国立研の運営に参加するための具体的システム、及びii)大型望遠鏡完成までの期間における観測・研究体制について検討を続けている。先日体制に関するシンポジウムを開催し、国立研に於ける光天連関係の委員会について委員の選出法などをWGとして提案した。その内容は、

A) 光学赤外・太陽物理研究専門委員会

光学赤外関係の専門委員は光天連会員による投票を実施する。投票結果に基づいて光天連運営委員会が調整する。太陽関係は別枠とする。

B) 小委員会委員

光天連運営委員会の意見をもとに、光学赤外・太陽物理研究専門委員会が委嘱する。

C) 運営協議員

まだ議論していない。

D) 研究交流専門委員会及び総合計画専門委員会委員

まだ議論していない。

である。宇電懇とは違い、専門委員の選出方法の議論が主で、運営協議員の選出方法についてはまだ議論されていない。

国立研関係報告(海部):

新台長候補 古在(調査室で決まった)

東京天文台台長事務取扱(4~6月) 平山

緯度観測所所長事務取扱(4~6月) 細山

仮運営協議員会議メンバー

外部(10名): 竹内、田原、中沢、堀、内田、杉本、奥田、松本、小暮、中川

内部(11名の予定だが、現在13名選出されており、今後調整が必要)

第1回仮運営協議員会議は3月12日に開催される予定。

そこで、新台長と企画調整主幹の候補を決め、移行人事構想の議論を行う。

さらに4月中に移行人事の内容を決め、5月に発足する国立天文台設置準備室（文部省内の協力者会議が3月で終わり、メンバーを入れ換えて発足する）に提案する予定。

文部省内の協力者会議（最終）が3月14日の週に開催され、新台長と企画調整主幹を決める。

改組準備調査室は6月まで存続することになりそうである。

議題：国立天文台に於ける各種委員の選出方法

前回の宇電懇運営委員会（1987年12月18日）において議論した。結論として、研究班を作って直接選挙し、偏った場合に調整機能をもたせられるようにすることを提案した。今回もこの方法についてさらに議論した。（なお、宇電懇での議論は、すべて外部委員の選出についてである。）

- ・投票事務は国立天文台が行う。
- ・名簿は宇電懇・光天連等から提出する。
- ・研究班員の資格は？
- ・研究班とすると複数の専門分野にまたがって投票できなくなる。

（運営協議員選挙では問題ないが、分野別専門委員選挙では問題）

- ・前期専門委員会が複数の運営協議員候補者を推薦し、この中から投票で選ぶ。
- ・選挙の際に地方区（自分の所属する専門委員会関係者）と全国区（専門分野にとらわれない人）を別々に投票する。

等の意見が出された。午後の光天連との話し合いでは、研究班を提案することとし、具体的に文章化しようという意見があったが、必要な場合には話し合いの場で作文することになった。

IV. 宇電懇・光天連運営委員懇談会報告

日時：1988年2月26日13時30分～16時

場所：東京天文台輪講室

出席者：宇電懇 田原、甲斐、海部、石黒、小川、鰐目、柴崎

光天連 小暮、小平、関、磯部、清水、沖田、安藤、田中、金子、西村、
若松、家、舞原

理論懇 高原、池内

司会：田原

議題：国立研に伴う委員の選出方法について

1) 光天連での議論の紹介（関）「体制WGからの報告」

光学赤外・太陽物理研究専門委員

台内外それぞれ5名。

太陽物理以外の7名程度を光天連より選ぶ（内外を合わせて）

光天連会員による投票＋光天連運営委員会が調整

2) 宇電懇での議論の紹介（柴崎、海部）

主に運営協議員の外部委員の選出方法について議論している。

研究班を作り、直接投票する。

前期専門委員会より数名の候補者を出す。

3) 天文学会の位置づけ (小暮)

光天連、宇電懇などの分野別の研究者組織ではなく、天文学会を全体に関わる研究者組織と考え、天文学会で対応してはどうか。

4) 理論天文学懇談会 (理論懇) (高原)

約130名で発足。委員長は高原。運営委員の選挙を行う予定。

5) 位置天文関係と太陽物理関係

位置天文関係者の中には宇電懇や光天連のような研究者グループをつくろうという動きがあり、そうならば太陽以外の天文関係者は大部分組織されることになる。太陽物理ではいまのところそのような動きはない。

宇電懇: 264名 光天連: 245名 理論懇: 約130名

以上の考え方、状況をふまえて議論を行った。

- ・直接選挙制の功罪。

- ・台内委員を含めた選出なのか、台外委員のみののか。

- ・光天連・宇電懇としては、「運営運営協議員の台外委員の選出に当たっては、研究者グループを組織して直接選挙する」方法が好ましいとする意見が多かった。しかしその際グループメンバーの資格審査という問題が残される。

- ・専門委員の選挙に際しては上記研究者グループを研究班に分けて行うのか、宇電懇や光天連などが独自で選出して台長に推薦するのかについては合意が得られなかった。

- ・共通の専門委員 (研究交流専門委員・総合計画専門委員) の選出については議論されなかった。

4月末ごろ次回の集まりを持ち、その際には位置天文関係や、太陽物理関係のグループにも加わってもらえるようにしたい。

V. 第9回宇電懇運営委員会報告

日時: 1988年3月22日10時15分～12時30分

場所: 野辺山宇宙電波観測所輪講室

出席者: 田原博人、森本雅樹、石黒正人、緩目信三、甲斐敬造

(大雪のため欠席者多数) (事務局: 柴崎清登)

報告1. 事務局報告: 宇電懇シンポジウム関係 (柴崎)

現在収録編集中 (小川→田原)

報告2. 改組準備調査室会議 (緩目)

日時: 3月12日午前

議題: 1. 昭和64年度概算要求

部門要求 (構想素案を基礎)、客員部門 (外国2、国内1)、
臨時事業費、建物、規則集

2. 人事関係

企画調整主幹、教授・助教授人事

次回：3月26日

報告3. 仮運営協議員会議（もどき）（緩目、田原）

日時：3月12日午後

出席者：内部12名（欠：1、オブザーバー：緩目、岡本）

外部 8名（欠：2）

議題：・新天文台長推薦 投票により古在現台長

（投票の際にメンバーシップの問題）

・企画調整主幹推薦 議論。3/18までに具体的に名前のあがった3名の中から台長が緯度観測所長事務取扱と相談して決める。

（上記内容を3月18日の国立天文台設置準備協力者会議（文部省）に提案する。）

・教授・助教授人事 教授候補者の紹介後議論。

論文数だけでなく、業務実績の評価も必要。

助教授の公募について。

・メンバーシップの議論 内部委員が13名となっているので、次回までに11名にする。

・会議の名称：国立天文台発足準備委員会とする

・次回日程：未定

資料：国立天文台（仮称）設置準備協力者（文部省）

赤池 弘次 統計数理研究所長

浅田 敏 東海大学教授

井口 洋夫 岡崎国立共同利用機構分子科学研究所長

内田 豊 東京大学教授（理学部）

小田 稔 前宇宙科学研究所長

柿沼 隆清 名古屋大学空電研究所長

古在 由秀 東京大学東京天文台長

清水 司 日本私学振興財団理事長

西川 哲治 高エネルギー物理学研究所長

西村 純 宇宙科学研究所長

長谷川博一 京都大学理学部長

早川 幸男 名古屋大学長

平山 淳 東京大学教授（東京天文台）

藤田 宏 東京大学教授（理学部）

細山謙之輔 緯度観測所長事務取扱

渡辺 保男 国際基督教大学長

議題1. 国立天文台における各種委員の選出方法について（継続）

①運営協議員会外部委員（10名）選出方法

a. 選出方法

- ・研究者による直接投票を基本とする。
- ・投票結果に基づき、まず各専門分野毎に上位1名（合計4名）を確保する。1つの研究機関からは2名以内とし、合計10名+ α を選出する。

b. 選挙人名簿

- ・選挙人名簿は国立天文台が作成する。
- ・選挙人名簿の作成にあたって研究者組織（宇電懇、光天連等）のある分野ではその組織が協力する。
- ・研究者組織のない分野では国立天文台が独自に作成する。
- ・選挙人名簿は閲覧に供する。
- ・選挙人の資格は・・・（博士、院生、論文、メーカー、教師、審査委員会）
（田原が原案を作る）

c. 被選挙人

- ・被選挙人の資格は・・・・・・（選挙人であること？教授以上？？）
（運営委員会ではまだ議論していない）
- ・各専門委員会から5名推薦することができる。

d. 投票方法

- ・選挙人は各専門委員会から推薦された計20名の他に、被選挙人有資格者の中から適当な人があればそれを含め計5名選ぶことができる。
- ・投票用紙例

国立天文台運営協議員会外部委員選挙投票用紙（5名連記）									
専門委員会推薦者（20名）						その他（5名）			
○ 印									
氏 名	・	・	・	・	・				
	・	・	・	・	・				
	・	・	・	・	・				
	・	・	・	・	・				
専 門 分 野	・	・	・	・	・				
	・	・	・	・	・				
	・	・	・	・	・				
	・	・	・	・	・				

②分野別専門委員の選出方法について

専門分野毎の独自性に任す。ただし、複数の専門分野に属する研究者が多数存在するため、ある程度分野間の調整が必要となるであろう。

宇電懇の場合、電波天文学専門委員の選出に当たり、今までの野辺山宇宙電波観測所の共同利用委員を選出していた方法（宇電懇運営委員による投票）か、宇電懇会員による直接選挙かなどについて、次回の宇電懇運営委員会（総会直前）において議論し、総会に諮る必要がある。

③ 共通（総合計画、研究交流）の委員の選出方法について（内外含めて）

それぞれの委員会につき内外を含め直接選挙とする。委員が15名以内の場合を考えると、10名を①と同様の方法によって選出し、残り5名以内についてはそれぞれの委員会において投票結果・分野・研究機関等を考慮して追加選出する。台内の委員は1/3程度とする。各専門分野からの推薦者数はそれぞれ4名とする。

議題2. 国立天文台の各種規則について

国立天文台の各種規則については、やっと改組準備調査室において議論が始まったばかりである。共同利用に関する部分は外部の研究者の意見が反映される必要があるので、これを各地における議論の資料とするため宇電懇会員に配布することとした。各自の意見は、仮運営協議員（発足準備委員）または改組準備調査室委員を通して反映されるようにすること。

議題3. 今後のスケジュール

- ① 宇電懇ニュースの発行予定：NO.78 4月上旬
NO.79 5月上旬（総会議題、年次報告）
- ② 運営委員選挙：4月中旬
- ③ 運営委員会：総会直前（総会の議題、事業報告、会計報告、選挙結果、電波天文学専門委員選出方法）
- ④ 総会：5月17日～19日の天文学会の期間中の昼休み

VI. 第16回電波天文研究施設WG報告

日時：昭和63年2月2日13時30分～18時30分

場所：野辺山宇宙電波観測所輪講室

出席者：NRO 森本、海部、石黒、東条

NSR 甲斐、中島、塩見、小杉

RIA 緩目、柴崎

議題1. 野辺山電波天文台及び関連委員会などの人事構想

- ・ 4人委員会よりの人事構想原案をもとに議論を行った。
- ・ 問題点として理学部施設への配転人事があげられ、議論を行った。
- ・ 4点の修正後承認し、他の分野との調整を行う際の電波天文研究系の人事構想として提出することになった。

議題2. 野辺山電波天文台の運営体制と予算配分

- ・ 運営委員会、幹事会等は7月より発足させる。それまでは、宇宙電波・太陽電波共通の問題については電波天文WGで引続き議論を行う。7月の時点でスムーズに移行できるようにする。

- ・ 63年度の予算は3つ（野辺山宇宙電波、太陽電波、豊川）独立とし、調整を運営委員会や幹事会で行うこととする。
- ・ 64年度概算要求は電波天文WGで議論する。
- ・ 各種委員会について

所員会議 月1回

運営委員会 教授+助教授+α～15名（内4名は選挙）としてきたが、教授候補者+助教授候補者+4～20となり、多すぎるので、10名程度にすることとした。教授5+助教授2+助手2+技官2+（事務主任）とし、助教授、助手、技官の2名は選挙で、選挙方法（全員投票 OR 階層別、事務職員の投票権等）については今後検討。

開催隔週程度

幹事会は設ける

議題 3. 技術部問題

- ・ 人事配置については台長を含む3名で相談中
 - ・ 技術部をどうとらえるかについての議論は組合で台長交渉予定
- 技術部を実質化するのか？

技術部は上位等級を確保するための方策ではなかったのか

工場所属の技官はどうなるのか（今までは事務部所属であったが、新しく技術部所属になっている。）

技術部長の役割は？

議題 4. 電波ヘリオグラフ小委員会

- ・ 電波天文専門委員会の下に電波ヘリオグラフ小委員会を設置する
- 4月の共同利用委員会に諮り、7月に発足するようにする。
人選については明日の電波ヘリオグラフ建設準備室にて案をつくる。

VII. 第17回電波天文研究施設WG報告

日時：昭和63年 2月23日 9時5分～12時35分

場所：野辺山宇宙電波観測所輪講室

出席者：NRO 森本、海部、石黒、平林、東条

NSR 甲斐、中島、塩見

RIA 緩目、柴崎

議題 1. 野辺山電波天文台3役（主幹、2観測所長）の人事構想の進め方

次回WGで3役を提案する。WGで提案することを3月9日の所員会議に諮る。WGの結論を4月6日の合同所員会議（宇宙電波、太陽電波、豊川）に諮り、4月8日のNRO共同利用委員会に諮る。WGメンバーは各自の意見をまとめておくこと。

議題 2. 昭和64年度の概算要求

主な概算要求項目 電波ヘリオグラフ、電算機リプレース、部門増等。

概算要求作成の体制

まとめ

電波ヘリオグラフ

電算機リプレース

部門増、国内客員、人員増

研究棟、太陽電波共同利用宿舎

官舎

共同利用、旅費

海部

建設準備室（甲斐）

石黒、近田

海部

甲斐、宮沢

森本

緩目、東条

スケジュール

3月素案、4月詰め。

議題3. 運営協議員、分野別専門委員の選出方法について

（2月26日の宇電懇・光天連合同運営委員懇談会の主な議題）

宇電懇の提案（1987年12月18日の宇電懇運営委員会）：

「定常時の運営協議員及び共通の専門委員の選出方法について」

アンケートによると直接選挙の要求が大きいのでこれを採用し、研究班を作って直接選挙し、この弱点をカバーするために調整機能を付加することを提案する。選挙人名簿を作成する際に、宇電懇や光天連などから班員名簿を提出し、重複のないようにチェックすること。調整方法としては、例えば直接選挙する委員の人数を定員より少なくしておき、残りを研究分野とか研究機関を考慮して決めることが考えられる。

「電波天文専門委員の選出について」

電波天文研究班メンバーによる直接選挙で選出し、系主幹が宇電懇運営委員会と相談して調整することを提案する。

この案について議論し、電波天文WGとしてもこれを推すことにした。

議題4. 6m望遠鏡のNRO設置について（平林）

地球回転VLBI太平洋ネットワーク（IRIS-P）観測は緯度観グループが電波研究所の協力により、月1度程度の頻度で鹿島26mを用いて行っている。しかし、1989年度以降は電波研の事情により26mアンテナが使用できなくなる。そこで三鷹6mアンテナを使用したい旨の打診があった。ついては、まず6mアンテナを水沢でオーバーホールし、その後野辺山に設置し、NROのVLBIターミナル等を使用して、IRIS-P観測を継続したい。

これに対し、NROのVLBIグループとしてもVERAグループがNROのVLBI研究活動に加わることに大いに期待し、またVLBIターミナルの空き時間を利用するのであれば問題はないので、この申し出を受け入れた。アンテナの設置場所については既に設置されているアンテナや、これから設置を計画しているアンテナの配置を考慮し（宇宙電波、太陽電波とも）、関係者と話し合うこととした。

VIII. 第18回電波天文研究施設WG報告

日 時：昭和63年 3月22日 15時～18時30分

場 所：野辺山宇宙電波観測所輪講室

出席者：NRO 森本、海部、石黒

NSR 甲斐、中島

RIA 緩目、柴崎

宇都宮 田原

議題1. 電波ヘリオグラフ建設小委員会

①設置理由

昭和63年度予算内示で大型観測装置調査費が認められたので、標記の小委員会を設ける。

②設置目的

電波ヘリオグラフの建設にあたり、国立天文台（仮称）の台外・台内に広く意見を徴するため。

③委員の選出法・任期

暫定的に野辺山宇宙電波観測所共同利用委員会に諮る。任期は完成まで。

④委員などの候補者

・台外、台内系外

黒河 宏企 京都大学理学部飛騨天文台

丸橋 克英 通信総合研究所平磯支所

大師堂経明 早稲田大学教育学部

小川原嘉明 宇宙科学研究所

桜井 隆 東京大学東京天文台太陽物理

・台内電波天文学研究系

森本雅樹、甲斐敬造、緩目信三

・オブザーバー

石黒正人、中島弘、小杉健郎、柴崎清登等

これを4月8日のNRO共同利用委員会に諮る。

議題2. 昭和64年度の概算要求

建物に関しては、既に改組準備調査室会議に資料を添えて提案した。

計算機リプレースに関しては、本日メーカーからの提案書が締め切られるので、これに基づいて概算要求案を作成する予定である。

議題3. 野辺山電波天文台の3役の人事構想

まず4人委員会の結論を森本氏より提案。系主幹：海部、宇宙電波観測所長：森本、太陽電波観測所長：甲斐。各自の意見を述べ話し合った結果、これをWG案として4月6日の合同所員会議に諮ることにした。

議題4. 合同所員会議（豊川・太陽・宇宙）について

日時 1988年4月6日 13時30分より

場所 野辺山宇宙電波観測所輪講室

議事 1. 豊川、太陽、宇宙各グループのメンバー紹介

2. 報告（電波天文学研究施設検討WGでの討議に沿って）

- ・天文台改組、電波天文学研究系、概算要求、年次計画他（海部）
- ・電波ヘリオグラフ（甲斐）
- 3. 議題1. 野辺山電波天文台の運営について
 - ・組織の大枠、系主幹および観測所長（WGからの提案）（森本）
 - ・運営委員会の構成、委員の選出方法（WGからの提案）（森本）
 - ・各種委員会（一般的議論）
- 4. 議題2. 国立天文台（仮称）の運営について
 - ・台内運営（鰐目）
 - ・共同利用運営（運営協議員、専門委員選出方法他）（柴崎）
- 5. その他

IX. 事務局からのお知らせとお願い

新入：村田泰宏 東大理天文M2（NRO）

移動：前原英夫 東京天文台木曾観測所 → 岡山観測所

退会：鈴木博子

大木健一郎、佐藤信太郎、栗村信一郎、鈴木育郎

宇電懇ニュース原稿募集：

宇電懇会員に知らせたいニュース、連絡事項、意見、近況、海外情報などを事務局までお寄せください。研究会等の案内や報告、それに各種ビジネスミーティングの報告も歓迎いたします。国立天文台、野辺山電波天文台等についての意見をどしどしお寄せ下さい。

宇宙電波懇談会事務局	〒442	豊川市穂ノ原3-13
代表 鰐目信三		名古屋大学空電研究所
秘書 柴崎清登	TEL.	05338-6-3154（代）
		05338-4-5711（FAX）
郵便振替口座	名古屋	4-42399 宇電懇事務局

国立天文台（仮称）に関連する各種規則の参考資料

（国立天文台の各種規則については、やっと改組準備調査室において議論が始まったばかりです。共同利用に関する部分は外部の研究者の意見が反映される必要があるので、これを各地における議論の資料とするため宇電懇会員に配布することにしました。各自の意見は、仮運営協議員（発足準備委員）または改組準備調査室委員を通して反映するようにしてください。）